

Gikyohan Times

No.0019

岐阜県教販通信

2022年4月発行

PCによる「探求の力」を付ける教育

当社は岐阜県の全小中高校に100年以上教科書を供給し続けてきまして2021年度に、「スクールイーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。スクールイーライブラリーの詳細情報は当社HP

(<http://www.gifukenkyohan.co.jp>)のバナーでご確認もできます。読書感想文コンクール等今後も岐阜県の読書推進をはじめとする教育サポーターをめざして参ります。岐阜県教販通信のバックナンバーもHPに記載しておりますのでご覧いただくと幸いです。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

「GIGAスクール構想」がスタートして1年、現在の状況はどうだろうか。21年度には一度も学校一斉休業が行われなかったこともあり、オンライン授業については、感染が広がり学級閉鎖や臨時休校となった。一部の学校以外だと、さほど実施される状況にはなかった。そのため、せっかく完備されたPCも、活用されないままになっている例も少なくない。使われずに埃をかぶっている学校さえあると聞くと、もったいないと思ってしまう。ただ、あまりにも急激に導入されたために、学校現場がPCの使い方を十分に掌握できていないことも原因の一つだろう。

PCを使えば、それだけで画期的に違う形の授業にならなければならないとの思い込みがあり、その当てがなかったために、PCを使っただけの授業に踏み切れない場合が多いのではないかと。そんなに難しく考える必要はないのである。第一、オンライン授業の場合でも、子どもたちが自宅の机の上で使うのは紙の教科書とノートであることがほとんどだ。PCは、学校の教室にいる教師と、自宅にいる子どもたちとの間をつなぐ道具として使われる。互いの顔を画面上で見てコミュニケーションを取るための役割が、最も大きいだろう。

子どもたちにデジタル機能を自由自在に駆使する術を身に付けさせられるだけの高度な能力を持った教師ならともかく、大多数の教師には、結局のところ紙の教科書を少しだけ便利にしたというくらいの使用法しか期待できない。では、PCを使っていくことにさしたる意味はないのか？ そうではない。教科書としてではなく、その内容をさらに深く調べたり考察したりする「主体的、対話的で深い学び」すなわち、今最も重要とされる探究型学習を行うための道具として

は、絶大な力を発揮するのだ。教科書とノートはそのままいい。教科書に記載された基礎的知識を基に、発展的な学習へと進めていくには、PCの中、そしてネットでつながる膨大な情報を利用するのが一番である。

そう、PCは教科書の代わりでなく、図書館の代わりや専門家の代わりになって、子どもたちに考えるヒント、調べる材料、さらには学び方の手引きにまでなっていく。机の上に、教科書、ノート、PCをそろえて、それぞれの役割を果たしてもらうのが、最も効率的な使用法ではないだろうか。PCを存分に使った探究型学習が、GIGAスクールによって広がっていくことを大いに期待したい。また、小中学校だけでなく、高校にも一人一台のPCが普及しつつある。

20年度からの小学校、21年度からの中学校、そして今年度からは高校でも、新しい学習指導要領による新しい教育が始まる。その合言葉、「探究の力」を日本の子どもたちにしっかり定着させていくことが、この社会の未来のために欠かせない。